

2026年4月23日
フューチャー株式会社
(東証プライム:証券コード 4722)

Future Financial Innovation Lab (FFIL) を開設 金融領域における先端技術の活用とイノベーション創出に向けて

フューチャー株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:谷口友彦、以下フューチャー)は、AIをはじめとする先端技術を活用して金融イノベーションを進めていくための研究組織として、Future Financial Innovation Lab(所長:山岡浩巳、略称FFIL)を開設します。

Future Financial Innovation Labでは今後、「世界の金融イノベーションの先端動向に関する調査研究」「フューチャーグループの技術を活用する金融イノベーションの調査研究」「フューチャーグループの提供するインフラの応用可能性に関する調査研究」などの活動を行っていくことを展望しています。

■設立の背景

「生成AI」や「トークナイゼーション」^{※1}などの新しい技術が登場する中、高度な演算処理と情報の集積体である金融は、これらの技術の応用可能性が広がっている領域です。こうした技術の活用は、金融サービスの高度化や、顧客利便性の向上を実現し、経済厚生を高める大きな可能性があります。現在、国際的なカンファレンスにおいても、生成AIやトークナイゼーションの金融への応用が大きなテーマとなっており、“AI-enabled bank”、“AI-powered bank”、“on-chain finance”などが注目を集めています。実務レベルでも、集中型システムと分散型システムの連携による効率化や、トークナイゼーションによる「スマートコントラクト」にAIを組み合わせた業務高度化など、多様な取り組みが進められています。

こうしたイノベーションを進めるためには、インフラの開放性や柔軟性がより一層重要になります。フューチャーグループの主要グループ会社であるフューチャーアーキテクト株式会社(代表取締役社長:齋藤洋平)では、「フルオープンAPI」を備えた柔軟な勘定系システム「InfiniBANK」^{※2}を構築しています。今般、世界の金融イノベーションの動向を踏まえ、「InfiniBANK」など当社グループが提供するインフラを一段の価値創造に繋げ、日本の金融・経済の発展に寄与していく観点から、最先端の金融イノベーションにフォーカスした研究組織を開設します。

■Future Financial Innovation Lab 所長 山岡浩巳のコメント

生成AIやトークナイゼーション(分散型技術に基づく資産のデジタルトークン化)など新たなテクノロジーが登場する中、世界の金融インフラは劇的な転換期にあります。さらに日本では「金利のある世界」への移行など、金融を取り巻く環境は大きく変化しています。フューチャーはこれまでも、環境変化に適応できるオープンで柔軟な金融インフラを提供してまいりました。本ラボでは、このようなフューチャーの高度なIT実装力および全国の金融機関とのネットワークを最大限に活かしながら、世界の先端的な金融動向などに関する情報や知見を日本の金融イノベーションに繋げ、社会課題の克服に貢献してまいります。



山岡浩巳 プロフィール

フューチャー株式会社取締役 金融ビジネス・フィンテック事業推進 兼 最高サステナビリティ責任者(CSO)

フューチャー経済・金融研究所所長

フューチャーアーキテクト株式会社取締役

日本銀行において、金融市場局長、決済機構局長など政策分野に広く携わる。この間、国際通貨基金日本理事代理、バーゼル銀行監督委員会委員、国際決済銀行(BIS)市場委員会委員、同決済・市場インフラ委員会委員など国際機関の要職を歴任。経済・法律分野での著書・論文多数。米国ニューヨーク州弁護士。

フューチャーは20社以上の事業会社を展開するソーシャルデザインカンパニーです。主要事業会社のフューチャーアーキテクトとともに、AI社会実装ナンバーワンカンパニーを目指し、テクノロジーによる経営課題の解決を実現するコンサルティングサービスを提供しています。なかでも金融領域では、全国30行を超える地域金融機関にコンサルティングサービスをはじめ、独自開発したフルオープンAPI勘定系「InfiniBANK」や、戦略業務系システム「FutureBANK」を導入しています。AIをはじめとした先端技術を効果的に導入・活用するための「システム群」「業務プロセス」「業務データ」を整え、データ戦略とデータガバナンスを実現するAI-Ready^{※3}な仕組みを実現していきます。

※1. 分散型技術による資産や資金のデジタルトークン化

※2. フューチャーアーキテクト、営業支援システム等を含む次世代のバンキングシステムを「InfiniBANK」と命名
https://www.future.co.jp/architect/press_room/PDF/PressRelease_InfiniBANK_20260119.pdf

※3. 企業や組織がAI技術を効果的かつ効率的に導入し、その恩恵を最大限に享受できる準備が整っている状態

■ 本件に関する報道機関からのお問合せ先

フューチャー株式会社 広報担当：清水、石井

TEL：03-5740-5721

お問い合わせフォーム：https://www.future.co.jp/apps/contact/corp/press_interview_entry.php